

# 安全データシート (SDS)

作成日 2019/10/24

## 1. 化学物質等及び会社情報

**化学物質等の名称** FoxP3/Transcription Factor Fixation/Permeabilization Concentrate (4X)

**製品コード** 44931  
**整理番号** S060  
**会社名** CST ジャパン株式会社  
**住所** 東京都千代田区内神田 1-6-10  
**電話番号** 03-3295-1630  
**FAX 番号** 03-3295-1633  
**メールアドレス** regulationjp@cellsignal.com  
**推奨用途及び使用上の制限** ライフサイエンス研究用試薬

## 2. 危険有害性の要約

GHS 分類

健康に対する有害性  
急性毒性（経口）：区分 4  
急性毒性（経皮）：区分 4  
急性毒性（吸入）：区分 3  
皮膚腐食性・刺激性：区分 2  
眼に対する重篤な損傷・刺激性：区分 2  
呼吸器感作性：区分 1  
皮膚感作性：区分 1  
生殖細胞変異原性：2  
発がん性：区分 1A

上記以外の危険有害性については分類対象外、区分外、または分類できない。

GHS ラベル要素

シンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

飲み込むと有害  
皮膚に接触すると有害  
皮膚刺激  
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
強い眼刺激  
吸入するとアレルギー、喘息、又は呼吸困難を起こすおそれ  
遺伝性疾患のおそれ  
発がんのおそれ

安全対策

容器を密閉しておくこと。  
使用前に取扱説明書を入手すること。  
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。  
取扱う時には、飲食または喫煙をしないこと。  
屋外または換気の良い場所でのみ取扱うこと。  
適切な保護衣、保護手袋、眼の保護具、呼吸器保護具を着用すること。  
粉じん、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。

救急措置	<p>皮膚や髪に付着した場合、直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、取り除くこと。また皮膚や髪を流水、シャワーで洗うこと。</p> <p>皮膚や髪に付着した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。</p> <p>飲み込んだ場合、口をすすぐこと。</p> <p>飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。</p> <p>吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。</p> <p>吸入した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。</p> <p>眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。</p> <p>眼に入った場合、眼の刺激が続く時は医師の診断、手当てを受けること。</p> <p>ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。</p> <p>気分が悪い時は医師に連絡すること。</p> <p>火災の場合、適切な消火方法をとること。</p>
保管	法令および取扱説明書に従うこと。
廃棄	内容物、容器は専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

### 3. 組成・成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

化学名又は一般名	官報公示整理番号 (化審法および安衛法)	CAS 番号	濃度または濃度範囲
ホルムアルデヒド (Formaldehyde)	2-482	50-00-0	≤ 10 %

### 4. 応急処置

吸入した場合	<p>空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。</p> <p>気分が悪い時は、医師に連絡すること。</p>
皮膚や髪に付着した場合	<p>直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、取り除くこと。また皮膚や髪を流水、シャワーで洗うこと。</p> <p>気分が悪い時は、医師に連絡すること。</p>
眼に入った場合	<p>水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。</p> <p>眼の刺激が続く時は医師の診断、手当てを受けること。</p>
飲み込んだ場合	<p>口をすすぐこと。</p> <p>気分が悪い時は、医師に連絡すること。</p>
予想される急性症状及び遅発性症状	<p>吸入：咳、咽頭痛、頭痛、息切れ、胸部の灼熱感。</p> <p>皮膚：皮膚の発赤。</p> <p>眼：発赤、痛み、かすみ目、流涙。</p>

### 5. 火災時の処置

消火剤	<p>周辺状況周囲環境に応じて適切な消火手段を使う。</p> <p>直接の棒状注水は避ける。</p>
消火対応者の保護	<p>消火作業の際は、適切な自給式の呼吸器用保護具、眼や皮膚を保護する防護服（耐熱性）を着用する。</p>

### 6. 漏出時の処置

人体に対する注意、保護具、緊急措置	<p>全ての着火源を取り除く。</p> <p>直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。</p> <p>関係者以外の立入りを禁止する。</p> <p>密閉された場所に立入る前に換気する。</p>
環境に対する注意事項	<p>周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。</p>
回収・中和	<p>不活性材料（乾燥砂又は土等）で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。</p> <p>漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。</p>

封じ込め及び浄化方法・機材	危険でなければ漏れを止める。 散水や水噴霧等により拡散させ、ガスを吸収する措置を取る。 ガスが拡散するまでその場所を隔離する。
---------------	---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱いの技術的対策	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
取扱いの注意事項	容器を密閉しておくこと。 使用前に取扱説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 取扱う時には、飲食または喫煙をしないこと。 屋外または換気の良い場所でのみ取扱うこと。 適切な保護衣、保護手袋、眼の保護具、呼吸器保護具を着用すること。 粉じん、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。
接触の回避	「10. 安定性及び反応性」を参照。
混触危険物質	「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管条件	取扱説明書に従うこと。

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	0.1 ppm (ホルムアルデヒド単体として)
許容濃度 (産衛学会)	0.1 ppm 0.12 mg/m <sup>3</sup> (ホルムアルデヒド単体として)
許容濃度 (ACGIH)	TLV-TWA 0.1 ppm 0.12 mg/m <sup>3</sup> STEL 0.3 ppm 0.37 mg/m <sup>3</sup> (ホルムアルデヒド単体として)
設備対策	この製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 ばく露を防止するため、装置の密封または防爆タイプの局所排気設備を設置すること。
個人対策	適切な保護衣、保護手袋、眼の保護具、呼吸器保護具を着用すること。
衛生対策	この製品を使用する時には、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。

## 9. 物理的及び化学的性質

外観	形状：液体 色：無色透明 匂い：特異臭
pH	7.4 (20°C)
融点・凝固点	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
爆発範囲	データなし
引火点	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度 (空気=1)	データなし
比重 (密度)	データなし

溶解度	データなし
オクタノール／水分配係数	データなし

## 10. 安定性及び反応性

安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	データなし
混触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	データなし

## 11. 有害性情報

急性毒性（経口）	区分4（飲み込むと有害）：ラットにおける実験結果より。
急性毒性（経皮）	区分4（皮膚に接触すると有害）：ウサギにおける実験結果より。
急性毒性（吸入）	区分3：ラットにおける実験結果より。
皮膚腐食性・刺激性	区分2（皮膚刺激）：ヒトにおける長期暴露の知見より。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	区分2（強い眼刺激）：ヒトにおける短期暴露の知見より。
呼吸器感作性	区分1（吸入するとアレルギー、喘息、又は呼吸困難を起こすおそれ）：日本産業衛生学会の分類より。
皮膚感作性	区分1（アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ）：日本産業衛生学会の分類より。
生殖細胞変異原性	区分2（遺伝性疾患のおそれ）：NITE 初期リスク評価書などより。
発がん性	区分1A（発がんのおそれ）：多くの疫学結果および日本産業衛生学会の分類より。

## 12. 環境影響情報

水生環境急性有害性	区分外：ゼブラフィッシュにおける実験結果より。
水生環境慢性有害性	区分外：急速分解性があり、かつ生物蓄積性が低いと推定されることから。

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	<p>廃棄においては、関係法規並びに地方自治体の基準に従うこと。</p> <p>廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託すること。</p> <p>本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避けること。</p> <p>廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にすること。</p>
汚染された容器及び包装	<p>容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。</p> <p>空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。</p>

## 14. 輸送上の注意

国際規制	
海上規制情報	該当しない
航空規制情報	該当しない

## 国内規制

陸上規制情報 該当しない

海上規制情報 該当しない

航空規制情報 該当しない

## 15. 適用法令

労働安全衛生法 特定化学物質第2類物質、特定第2類物質（特定化学物質障害予防規則第2条第1項第2、3号）  
特定化学物質特別管理物質（特定化学物質障害予防規則第38条3）  
名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9）  
名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9）  
危険性又は有害性等を調査すべき物（法第57条の3）

化学物質排出把握管理促進法（PTPR法） 第1種指定化学物質、特定第1種指定化学物質（法第2条第2項、施行令第1条別表第1、施行令第4条）

毒物及び劇物取締法 劇物（法第2条別表第2）

## 16. その他の情報

免責条項：この安全データシートに記載されている情報は、その発行日における弊社の知識、情報、及び方針の範囲内で正しいものです。その情報は、安全な取り扱い、使用、処理、保管、輸送、廃棄、および放出に関する手引きとしてのみ記載されており、保証または品質仕様をなすものではありません。またこの情報は指定した特定の物質にのみに適用されるものであり、他の物質とともに使用する場合、または他の手法で使用される場合には、このSDSに記載のない限り適用されないことがあります。

安全データシート終